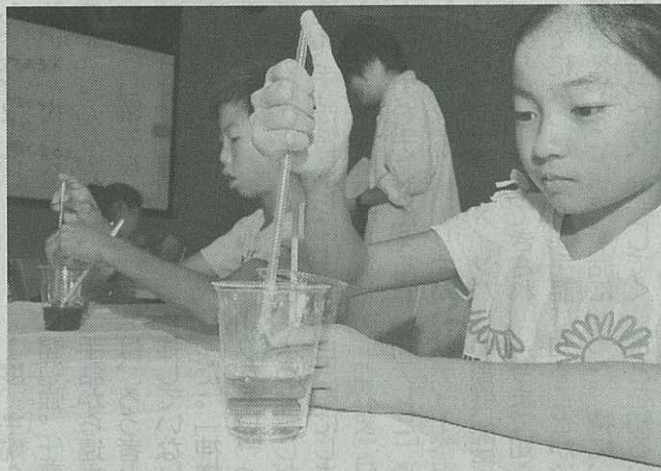


児童が「一日大学生」

土屋小 神大で科学や英語体験



大学生の指導を受け青く着色した「人工イクラ」に挑戦する子ども。平塚市土屋の神奈川大湘南ひらつかキャンパス

年生計36人が「一日大学生」となり、科学実験や学生食堂での食事などを楽しんだ。

子どもたちは二手に分かれ、科学サークルによる人工イクラ作りと、同大の外国人講師が常勤する「イングリッシュラウンジ」での英会話を、交互に体験した。

「人工イクラ」は海藻の粘り成分のアルギン酸ナトリウムを赤や黄色などで着色し、乳酸カルシウムの水

溶液に一滴ずつ落とすことで、次々と作られる。子どもたちは異なる色を混ぜて新たな色を生み出すなど、興味深く取り組んでいた。

本物のイクラの色に似せようとこだわった小清水伊織君(10)は「触った感じはイクラと同じだったけれど味はしなかった。大学生になつていろいろなことに挑戦するのが楽しみになった」と満足げだった。

指導役を務めた同大理学部3年の西藤瑠也さん(21)は「思った以上に子どもたちの反応が良かった。これを期に理科が好きになつてくれたら」と話していた。

(浅川 将道)

【平塚】神奈川大学の湘南ひらつかキャンパス(平塚市土屋)の施設を使って、児童が体験教室を行う交流事業が27日行われた。5、6